

ともこ
江田 智子 さん
(犬伏町)



キラリ★ 話題の「ひと」

○プロフィール
佐野市民生委員児童委員協議会犬伏地区会長、佐野市男女共同参画審議会委員、女性が輝く佐野をつくる市民の会会員

「地区の良き隣人」として

17年前から民生委員として活動している江田さん。地区の「良き隣人」として、皆さんに寄り添い、できるだけの支援を心掛けてきたと、開口一番お話ししてくれました。

現在市内15地区、274人の民生委員の方が活動しているそうです。その中で犬伏地区の会長として34人の委員さんをまとめている江田さんはこのたび、晴れて平成30年度全国社会福祉大会で表彰されました。「今回の賞は、福祉コミュニティなど、共に高めあう地域共生社会の実現のために、民生委員としての委員活動を支えてくださった皆さんとの信頼関係に助けられながらいただいた賞です」と誇らしげに語ってくれました。

会長としてまずは、ご自身の役目は無論のこと、ほかにできることはと、委員の方々の資質向上のために、市からの研修には積極的に参加することで、互いにコミュニケーションを図りたいと考えたそうです。今ではほとんどの研修

に全員参加できるようになり、民生委員としての絆も生まれ、しっかりと活動に繋げることができたと確信している江田さん。

全国の研修会に参加した折には、活動状況報告や意見交換などの地域においても「良き隣人」として見守り、支援につなげて活動していることに改めて同感し、ご自身の資質向上を求め、意欲が湧いたそうです。

現在、趣味の書道に研鑽を積みながら、民生委員の活動とともに、公民館での書道教室や町会の健康維持の運動、特別養護老人ホームでの書道ボランティア等々、日々忙しく毎日輝いて活動している方です。(市民記者 葛貫郁子)



平成30年度全国社会福祉大会での表彰状

市長からの メッセージ



市民の皆さんには、晴れやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年をふり返りますと、4月から本市まちづくりの第2ステージとなる「第2次佐野市総合計画前期基本計画」がスタートしました。8月には今後のインバウンド促進の柱となる「佐野市国際クリケット場」が完成したほか、年末には本市スポーツのマネジメントを担う新会社も設立しました。また、市民主体で開発された「佐野黒から揚げ」も本市の新グルメとして広がりを見せるなど、地方創生の先導的取り組みが形になった1年でした。

本年も「観光立市」「スポーツ立市」「産業・文化立市」を推進しながら、「定住促進」の推進テーマのもと地方創生を加速させてまいります。

いよいよ今年の10月には、女性が活躍できる社会の実現に向けた全国規模の大会である「日本女性会議」が、本市を舞台に開催されます。全国各地からの参加者との交流を通して「女性が輝くまち佐野市」の実現につなげていけるよう、皆さんと一緒に準備を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。

今年13日に成人式が市内3会場で行われます。平成最後の新成人の皆さんに対し、「輝く未来へ」という言葉を贈ります。新しい年号のもと、新たな未来を創っていく皆さんには常に向上心を抱き、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに協力し合い、新しい時代を築いてもらいたいと思います。「輝く未来へ」力強く羽ばたいてください。

亥年にふさわしく、皆さんと一緒に目標に向け全力で進んでまいります。今年1年が素晴らしい年となりますように。

岡部正英



さのマラソン大会

1月9日(日)、佐野市運動公園を発着点とし開催され、市内外から約3,000人のランナーが集い、健脚を競いました。

フルマラソン、10キロ、5キロ、2キロ、親子ジョギングなど多彩な種目で開催され、参加者はそれぞれのコースで日頃のトレーニングの成果を披露されていました。

また、各給水所での飲食物の配布や沿道での距離表示など、多くのボランティアの皆さんにご協力いただき、盛大に開催することができました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。



安全に留意して、楽しく山歩きを

佐野市にはこの時期、歩くのにちょうど良い山が多く、中高年を中心に、群馬や埼玉など近隣の県からも多くの方が訪れています。唐沢山や三床山、寺久保山、諏訪岳(京路戸)、大小山(足利との境)などです。道も比較的よく整備されていますが、足場の悪い所もあり、コースを十分調べ、ご自身に合ったコースを選ぶことが大切です。

また楽しい山歩きには、自然生物に注意が必要です。イノシシやマダニ、夏は蜂やヤマビルに注意が必要な山もあります。マダニについては長袖長ズボンの寒い時期でも、きちんと対策は必要のようです。

事前に自分に合ったコースを選んだり、山に生息する生物について確認し、十分な対策をしたうえで、山歩きを楽しみましょう。

(市民記者 福田満)



戸奈良から望む三床山

佐野市
ばんてい

「ずずめのとつぼう」も、
「やぶかんぞう」も、
「ピーピーグサ」とい

ずずめのとつぼう」と「やぶかんぞう」、これらの雑草を方言でピーピーグサといいます。ずずめのとつぼうは、水田や湿地などしめつばい場所に群れをなして生えています。高さは20〜30センチほどで緑色、5、6月に棒状の花穂をつけます。この穂を引き抜くと小さな穴があき、その穴に息を強く吹き込むと、ピーピーというかん高い音が出ます。このことからピーピーグサとされています。ずずめのとつぼうは、漢字で「雀の鉄砲」と書きますが、それは花穂を雀おどしの鉄砲になぞらえたためだといわれています。子どもたちは野原に出て、ずずめのとつぼうを見つけると、ピーピー鳴らして遊びました。でも、最近は子どもの屋外での遊びが少なくなってきたのでしょうか、このような遊びを見かけなくなりました。

佐野市の田沼や葛生地方では、やぶかんぞうをピーピーグサといいます。やぶかんぞうは春先になると、溝のまわりや土手などに、あざやかな緑色の芽を出します。葉は長く幅は3センチ程度、やや厚みがあつてなめらかでつやがあります。その葉の横端を両唇にはさんで、横笛を吹くように息を強く出すと、ピーピーという音が出ます。その音からやぶかんぞうをピーピーグサとっています。ちなみに、女の子は、やぶかんぞうの葉を折り曲げたり切り取ったりして、人形を作ったり楽しみました。そこでやぶかんぞうを、ニンギョウグサともいいます。

(市民記者 森下喜二)

今回の表紙 「唐沢山から望む日の出」

唐沢山から美しい日の出を望むことができました。市内の山々や街並みを朱色に照らしながら、ゆっくりと昇ります。本年もよろしくお願ひいたします。